

さわやか NPO

文化と歴史の中では、数人を擁する同会は、今春、「そば打ち」では全品として知られる「そば」国初のNPOの認証取得。一九九二年に同好会をテーマに、誰でも参加できる例会を毎月開催としてスタートし、そばし、そば打ちの講習・研のすべてを学ぼうと、十修などを行っている。地三年前から河内長野市の畑元堺を代表する「刃物祭り」をはじめ、「永沢寺そば祭り」(兵庫県三田市)、「大柳生そば祭り」(奈良市大柳生町)など各地のイベントに参加し、手打ちそばの実演や試食会などで、そば打ちの普及に役買っている。そば打ちの有段者三十

イベントとして、『泉北そば打ちを通して、豊かな地域づくり、地域づくりに取り組んでいる』と元そば祭り屋を考えている。

泉北そば打ち普及の会

理事長 中島木太
事務所 和泉市光明台2-5-22
堺市北花田口町3丁2-13
(綿利そば製粉内)
電話・ファクス 0725-56-3634



手打ちの楽しさ味わって

講師の依頼殺到 「祭り」も計画中

そば打ちを通して仲間づくり、豊かな地域づくりを目指している会員たち

泉北そば祭りは企画段階だが、そばの見本打ちや早食い大会、秘伝のそばつゆの作り方など夢いっばいの計画が進んでいる。

五十人余りの会員は二、三十代まで年齢層も幅広い、職業も高校教師や大手企業役員など多岐にわたる。六月末に全国麺類文化地域間交流推進協議会からB会員の認可を受け、初段、二段位の昇級試験が私たちの会で可能になりました」と語る中島木太は、副理事長の脇家武彦さん(五十)は現在三段位。この秋、四段位に合格すれば二段位の試験も自前で実施できる。

高校教師で理事の吉村禎二さん(五十)は妻の裕子さんの勧めでそば打ちにのめり込んだ。現在、夫婦そろって二段位。二人で三段位に挑戦する

同会の運営を「縁の下力持ち」として支えているのが、綿利そば製粉社長の小西功勝さん。会社の一面を会の事務局、例会・研修の会場として提供している。小西さんの二女で初段位の由利子さんは「父は『そば命』。そば打ちの楽しさ、手づくりの楽しさを味わってほしい」と目を輝かせて語る。

手づくりの食文化を見直し、余暇活動を有意義に送りたいと考える人々の受け皿として、さらに地域の子どもたちにスロースポーツの楽しさを伝えるため、同会には講師派遣の依頼が殺到している。

(松尾八十八記者)

地域ワイド